

八幡製鐵所に於ける野田鶴雄博士の功績の一片

黒田泰造

本年1月9日野田博士の追悼會で多くの方が集られ中井、伍堂、景山氏等の御話を承つて私は八幡に居られた頃の博士の御功績を思い出し、こゝに其一片を記する事とした。

(1) 銑鋼一貫主義：あの頃は日本の勢力が逐次増大して行く時であつて米國より Scrap が澤山來ていたが米國での年々の論調では日本の軍艦、軍器を造らせる Scrap を引き續き無制限に出すべきでないとの聲高く、従つて本邦としても今後銑鋼一貫主義であらねばならぬとの博士の御考えから此の銑鋼一貫主義なる言葉も氏の名付けられたものであり、其後此の方面の發達に夫とそ一貫的に努力され、實行されたのである。

(2) 洞岡高爐の擴張：構内で西田の方に2本高爐を建てようとの御考もあつたが洞岡埋立地の方になり、私も將來の爲廣い洞岡を賛成したのであつた。そして其高爐の大きさは問題となり東田では最大350t位であつたのを洞岡では500tを建て、見ようとの事で永年弱いそして灰の多いコークスで苦勞された鶴瀨氏を海外に派して調べさせられたが氏はあちらの人達の意見も聞かれ、それで該地よりの報告では日本炭を主とするコークスでは500tは大にすぐとの事であつた。そこで博士は私の意見を求められ私は500t迄は保證すると申上げ、かくて決行されたのであつた。

(3) 日鐵：鐵鋼發展の意味より合同を主張されて日鐵が出來、そして益々日本の鐵が盛になつて來たのである。

(4) 鐵矢板：むつかしい鐵矢板を八幡が初めえたのはいつか景山氏が追悼會で懺悔的に話されたが、是又博士の決斷の到す處で景山氏は其頃私に博士が無理を強いらるゝとこぼして居られた位であつたのだ。それが二年許後に成功し、今にして思へば全くよい事を残されたのである。

(5) 國產發電機：國產の大發電機採用を初めて決行された。之も實に大決斷である。幹部としては敢えて甘じで責任を負はるゝ點は以て鑑とすべきである。かゝる點に就ては今後も大いに考うべき事と思う。

(6) 鞍山製鐵所：鞍山のみならず、他の製鐵所にも便宜や指導をせられたのは人物の大なる事を示すのである。鞍山は御關係もあつたが東亞の將來を考へてよく世話してあげられあの立派な工場となつた。之に反し私が人間の小さかつた事を全く恥かしく思うのである。再度に亘り二人の有能の私の部下を鞍山に出す事を拒んだ。此際大變御機嫌が悪かつたのである。八幡で私の方面は副業の事として中々人才を集めにくゝ、多くの優秀な人を活躍して貰いたくとも思うに任せない、私としては八幡に父が私を養子にやつたのだ位の積りで八幡本位で永年暮していた事としてよき人を手放すのは好まなかつたのである。

鞍山は其初め、元の製鐵所長官で滿鐵總裁の中村雄次郎氏から特に頼まれ、又製鐵所としてもなるべくよく世話せよとの事であつた。同所は初めまづ銑鐵のみであつたが高爐（服部漸博士が世話する）以外は廣い百萬坪の敷地の計畫より初まつて、コークス、洗炭、副産物、鑛滓利用方面、耐火煉瓦方面に至る計畫に對し、2年間、作業の技術者及多數の工員の養成を初め、設計に就ては人々を私の室に入れて世話し、建設には人を派遣し、4人の職工長を送り、そして start まで御世話したのであつたが、先方では建設方面は土木や機械などの人々で八幡より貸した人の言を聞かず、従つて失敗もあつたが、しかも其失敗を私の失策と惡聲を放つたりなどされた。加之、報酬は全く期待しないのであつたが、一本の禮狀さえ頂かなかつたのである。年經て黒田式コークス爐を建設すべく先方の幹部や野田博士等の申出でもあつたのに以上のいきさつやら其他二つ許りの理由で之を斷つたのを今にして思えば私の考えのいかにも小さかつた事を恥ずると共に博士の偉大な構想を想起し、大いに賞揚しなければならないのである。